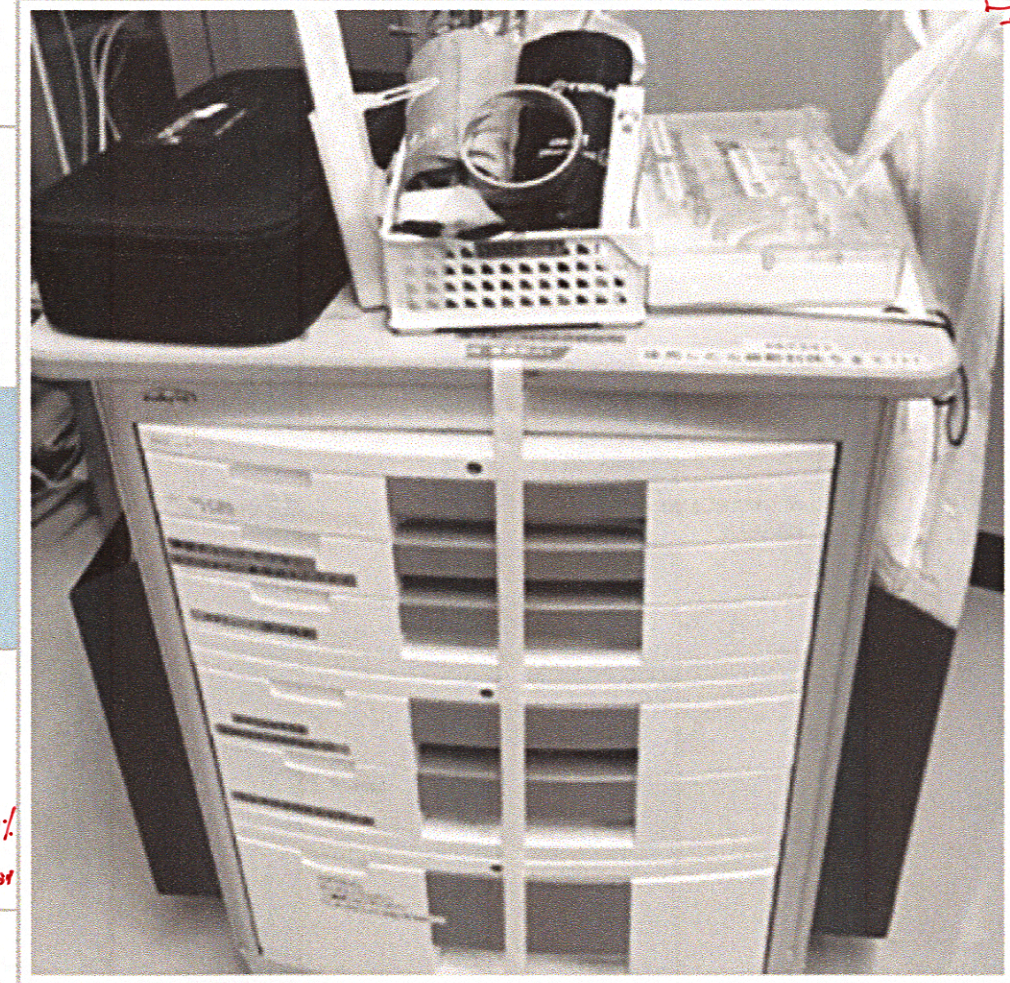


注冊

ちょつと
拝見

となりの
DAMカート

長野赤十字病院の巻



$x = 34$ 311
 $y = 209$ 311

0.3ミリケイ
色バタ+スミ40%
42 $\xrightarrow{\text{ミ}} 144$

白牡丹

 $z \approx 80$

金19+2340% ~ 基本情報

手術室 11 室に対して DAM カート1台
W58 cm×D39 cm×H82 cm

当院のDAMカートは手術室エリア入口、麻酔科備品棚のすぐ前に設置。

McGRATH™ MAC およびブレード (#3/4)は全手術室に設置、
モニター付きの気管支ファイバー、シングルユースビデオ軟性気管支鏡はDAM カート横に常備。
ラリンジアルマスク (LMA) などの声門上器具は麻酔科備品棚に各種サイズを揃えている。

情報提供 長野赤十字病院 黒岩 香里 ○○

指定外
11a新子R

1234 • LISA VOL.11 NO.1 2004-1

色ハダ + 2 = 40%
文字・白スギ

6³¹¹ → (1255₃₁₁)

ちょっと拝見◆となりのDAMカート

引き出し 2 段目 ↔ 65^{mm}

- 経口エアウェイ (#3/4/5)
- 経鼻エアウェイ (#6/7/8)

×18^{mm} Y36^{mm}
 55^{mm} ↑ 89^{mm}

×110^{mm} Y18^{mm}
 55^{mm} ↑ 80^{mm}

×18^{mm} Y94^{mm}
 56^{mm} ↑ 78^{mm}

引き出し 3 段目 ↔ 42^{mm}

- 気管チューブ (#5.0/5.5/6.0/6.5/7.0/7.5/8.0/8.5)

引き出し 4 段目 ↔ 42^{mm}

- LMA (#2/2.5/3/4/5)

側面 (左) ↔ 33^{mm}

- 吸引チューブ (6/7/8/9/10/11/12/13/14 Fr) 各3本

×99^{mm} Y130^{mm}
 56^{mm} ↑ 40^{mm}

×18^{mm} Y189^{mm}
 54^{mm} ↑ 84^{mm}

引き出し 5 段目 ↔ 70^{mm}

- i-gel® (#2/2.5/3/4/5)
- ラリゲルマスクファーストラック (#4)

×105^{mm} Y210^{mm}
 52^{mm} ↑ 85^{mm}

上面 (天板) ↔ 84^{mm}

- エアウェイスコブ 本体
- 経口エアウェイ (#5.5/6.0/7.0/8.0/9.0/10/11/12)
- マンシェット (#M) 2 個
- パルスオキシメータ 3 個
- バイトブロック
- 電子体温計
- ヤンカーサクシジョンチューブ (先端部外径 4.0 mm)
- ユニバーサルスタイルットブジー (外径 5.0 mm, 長さ 650 mm) 3 個

×34^{mm} Y64^{mm}
 55^{mm} ↑ 70^{mm}

×58^{mm} Y120^{mm}
 61^{mm} ↑ 46^{mm}

側面 (右) ↔ 64^{mm}

- ガムエラストックブジー (8.0 Fr/35 cm 1 個, 14 Fr/70 cm 2 個)
- チューブエクステンジャー (19 Fr/83 cm 3 個, 14 Fr/100 cm 1 個)

×6^{mm} Y120^{mm}
 77^{mm} ↑ 30^{mm}

×20^{mm} Y210^{mm}
 52^{mm} ↑ 84^{mm}

コメント

DAMカートの設置場所は、『日本麻酔科学会気道管理ガイドライン2014 より安全な麻酔導入のために』の「どの手術室からも数秒以内で取りに行ける場所に置いておくことも一法である」が根拠になっていると思われる。長野赤十字病院 (以下、当院) では、DAMカート近くの三つの手術室で、主に帝王切開や耳鼻科症例、小児外科症例の手術を行っているが、手術室エリアはさして広くはないので、最も遠い手術室からでも走れば数秒以内でたどり着ける。しかし、途中のホールでは清潔機械展開中のことも多く、迂回するには備品置き場を通る必要がある。あたかも障害走のようになってしまったため、DAMカートを押して戻る場合はさらに時間を要するだろう。コストの点でもDAMカートを安易に増やすことはできず、「どの手術室からも数秒以内」は、あくまで理想だと思っている。またDAMカートまでたどり着いたとしても、そこはいつもの麻酔科備品棚の前であり、いつもの場所から取りたくないのであるが人情ではないだろうか？ そう考えると、当院のDAMカートは、困難気道の際に必要な物品を取りに行く場所としては、十分に機能しているとはいえない。

あらかじめ困難気道が予想される症例の場合には、手術室にDAMカートを移動させておき、朝の麻酔科カンファレンスで「今日は〇〇番手術室で使います」と周知しておく。ICUから気管挿管や抜管の依頼があったときも、同じフロアにあることからDAMカートを持参することが多い。一方で、病棟での急変対応にDAMカートを押していくのは難しく、これまで本誌で何度か取り上げられたことがあるDAMバッグのアイデアは素晴らしいと感じた。

DAMカートの出動頻度は比較的高いが、物品が実際に使用されることはほとんどない。使用した場合は、その都度、麻酔科系の看護師にその旨を伝えて補充してもらっている。補充完了後は引き出しにテープで封をし、物品使用時にテープを剥がすことで、補充が必要であることがわかるようになっている。

使用頻度の低い物品は、使用期限が切れてしまうことが多々ある。期限切れ物品には、赤線でマーキングして早めに使用するように心掛けている。

引き出し 6 段目 ↔ 86^{mm}

- Ambu バッグ (成人用) 2 個
- トラキマスク (成人用)
- 気管切開用人工鼻
- 気管切開チューブ (内径 7.5 mm/ 内径 8.0 mm) 各 1 個
- クイックトラック (成人用内径 4.0 mm/ 小児用内径 2.0 mm) 各 1 個
- 酸素湿潤器